

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 44 回 松阪市手話施策推進会議
2. 開 催 日 時	令和 6 年 2 月 13 日 (火) 18 時 30 分～19 時 40 分
3. 開 催 場 所	松阪市役所 5 階正庁
4. 出席者氏名	(委 員) 深川誠子、栗田季佳、牧戸淳、高柳吉紀、亀田紀子、 中村勝博、榊原典子、小泉恵希、越川元博、西浦有一 (事務局) 西嶋秀喜、小山賢司、村田智美、北村智絵
5. 公開及び非公開	公開
6. 傍 聴 者 数	0 名
7. 担 当	松阪市福祉事務所障がい福祉課 TEL 0598-53-4059 FAX 0598-26-9113 e-mail : shogai.div@city.matsusaka.mie.jp

○協議事項

- ・令和 5 年度「まちかどミニお手話べり会」反省と来年度に向けて
- ・「松阪市手と手でハートをつなぐ手話条例」施行 10 周年記念事業について

第44回 松阪市手話施策推進会議 議事録

日 時：令和6年2月13日（火）18時30分～19時40分

場 所：松阪市役所 5階正庁

出席委員：深川誠子、栗田季佳、牧戸淳、高柳吉紀、亀田紀子、中村勝博、榊原典子、
小泉恵希、越川元博、西浦有一

事務局：西嶋秀喜、小山賢司、村田智美、北村智絵

傍聴者：0名

1. あいさつ 議長あいさつ

2. 協議事項

■令和5年度「まちかどミニお手話べり会」反省と来年度に向けて

事務局（資料説明）

ここで皆様に今年度のまちかどミニお手話べり会について反省やご感想を出し合っていたいただき、今後活かしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

議長 ありがとうございます。それでは皆様、何か気付いたことであるとか、改善点、反省などございましたら聞かせていただきたいと思います。お一人ずつご意見いただきますようよろしくお願いいたします。では、ろう者の方からご意見ををお願いします。

委員 特に大きな問題はなかったかなと思います。午後からはろう者の参加が少し少なかった。欠席ですとか、遅刻をされた方がいらっちゃって、ろう者が足りないという印象がありました。

議長 午後からはろう者のスタッフが少し足りなかったもので、午後担当されている方々が大変だったということですね。次の方をお願いします。

委員 当日は家の都合で欠席をさせていただきます、皆様には協力ができなくて本当に申し訳ございませんでした。

議長 欠席でしたね。すみません。次の方。

委員 午前中だけ出させていただきます、やっぱりろう者と聴者がふれあうきっかけと

というのが一番大事なのかなと思って。実際体験ってなかなか日頃できないと思うので、そこに力を入れてもらうといいのかなと思いました。子どもとか、体験やミニ手話教室で笑顔がすごく見られた。通じた時の喜び方とかすごく感動した。そこをこれからも重点的にやってもらうといいのかなと思います。

議長 参加できていなかったのですが、当日の様子を聞かせていただいて体験やふれあいの場が一番大切と感じました。来年もぜひ続けていけたらいいなと思います。

委員 私は午後からの担当でしたが、先ほど他の委員が言われたようにろう者が少なくってちょっと大変だったと感じました。皆さんにミニ手話教室で手話を覚えてもらったあと、最後のところでろう者と実際におしゃべりしてみようというコーナーが二ヶ所あったんですよね。その担当ろう者は決めてもらってあったんですけども、遅れてみえたりしたとかでいけないことがあったので、担当ではない人を捕まえて「お願いだからちょっと簡単な手話を聞こえる人が手で表すので、相手になってあげて」って言って、無理にお願いした。30分ぐらいつないでもらったということもありましたけど、その人たちも楽しかったと言ってくれたので、いい経験だったのかなって思います。それからろう学校に通っている小さいお子さんもお母さんと一緒に見えて、とても手話をスムーズに表してくれたりもありました。それから、たまたま買い物に見えた80歳ぐらいのお年寄りが、ちょっと声をかけたら一緒に参加をしてくださって、覚えてくださったりとかして、やっぱりショッピングセンターですというのはいろんな人たちに広められてすごくいいのかなって思いますし、実際に聞こえない人と手話でおしゃべりができた、通じたわってという体験がすごく皆さんにとっては貴重なものになってよかったかなと思います。

議長 当日お願いしていたスタッフの中のお一人から、天候が悪くて行くのに時間がかかって遅刻してすみませんでしたという連絡をいただきました。また、お家の都合があって急に欠席になられた方とかもいらっしまったので、次回からは少し余裕を持って人員を配置したいと考えています。続いての方。

委員 私はミニ手話教室の担当をさせていただきました。すごく手話を勉強されて来られた子どもさんが話せることにすごく楽しんでいたり、喜んでいたりというところがすごく印象に残りました。ただもう一つ、恥ずかしがる子どもさんもいて、やったらできるのになってというような感じで親御さんが横で話されることもありました。手を動かして手話をするというのが恥ずかしいわみたいな感

じの子どもさんもいらっしゃって。遠巻きに見られている方にもやってみる？と声をかけさせてもらったんですけど、ちょっとなかなか参加しにくいのかなという部分もあるのかなと思いつつ、案内の係をさせてもらっていました。

議長 思い出したことがあって、私が小さい時に電車の中や町で手話をするとうごく好奇心目で見られたんです。それが恥ずかしくて、嫌でおしゃべりをやめてしまったという、今のお話を聞いてそんな昔のことを思い出しました。ろう者と聞こえる人を比べるとどうしてもろう者の方が人数が少ないですよ。ですから、なかなかろう者の手話を見るという機会が少ないかと思うんです。それで、もし皆で手話でおしゃべりをしていたら小さい子どもたちがそれを見て「手話ってこういうふうなものなんだ」って恥ずかしく感じないようになればいいなと。ですからもっと手話が広がってほしいなと思っています。

委員 当日は皆さんお疲れ様でございました。私は景品を担当させていただきました。行かせていただいて3回目になります。この写真でも分かるんですが、去年は衝立もありましたし、やっと5類になって平常開催になったのかなというふうに、まずそれを感じさせていただきました。だいたいいつも同じ仕事なんですけども忙しくなっちゃいましたね。ありがたいことなんですけども。本当に参加される人数が多いと思っておりますし、各コーナーもどんどん充実していっていると感じております。あと直接、地域の皆様に接しさせていただいて手話の啓発イベントができるということが本当にありがたく思いましたし、本当にその大切さを感じました。また改めて参加いただいた皆さんお疲れ様でございました。

議長 お忙しくて大変かと思いますが、参加者が増えるということは嬉しいことですよね。

委員 初めてスタッフとして参加をさせていただきました。あの日はすごく寒くて、荒天という日に当たって来られなかった方、遅れてしまった方が見えたということだったんですが、返って外で遊ぶんじゃなくてアピタに来るという人が多かったんじゃないかなと。そういった意味では人がたくさん来てくれたのかなと感じました。集計表の(2)のところでもたまたま通りかかったという方が24.3%ということで全体の4分の1の人がたまたまということは、アピタでさせてもらったことが大きいなというふうに思いました。やっぱり「何やろ」と思って人が寄ってくださるようなところでぜひたくさんの人に知ってもらえるといいなということと、あと子どもたちはアンケートとか協力したらブルー

ンがもらえるよという状況だったので、親子連れであるとか、おじいちゃんおばあちゃんと一緒にというので参加してくれて。そういった子どもが興味を持って参加してというところで、いろんな世代の人が参加してもらえてよかったなと感じました。

議長 全国手話条例があちこち成立されていますけれども、フェスティバルの様子を聞くと、やっぱりショッピングセンターの中で開催するというのが少ない状況なんですね。ですので、そういう意味でもこちらの会場でよかったなと思います。そういうきっかけで広がっていくというのはいいなと、そういう意味でもショッピングセンターで開催できたのはよかったなというふうに思います。

委員 私もこのイベントは2回目でちょっと手前味噌になりますけれども、こちらのスタッフの丁寧な準備で当日はスムーズにできたのかなと思っています。アンケートの結果を見ても、まずアンケートに協力していただく方が多かったということと、満足度も高かったということで、やっぱり先ほどの話でもありましたけど、アピタという場所でこういったイベントができたことというのは本当に恵まれていることだなと思いました。また来てくださったお子さんがすごくこのイベントを楽しみにしているんだと言ってくれた方とか、サークルに参加したいんだという方がみえました。ですので、もっと手話が身近になるような取り組みをしていく必要があるのかなというふうに感じました。委員の皆様ありがとうございました。

議長 県も手話言語条例が制定されていますけれども、県のキッズモニターアンケートで手話に触れたことはありますかというアンケートの結果がありまして、最初は50とか少なかったんです。やっと70、80と増えてきました。松阪市も90%広がったということはいいいことだなと思いました。ショッピングセンターに来ていただくというきっかけで知れたということで。だんだんこういうふうに広がっていったというのはよかったなというふうに思います。

委員 当日は久しぶりに私もイベントに参加し、委員の皆様にも、欠席の方は残念ながらお会いできませんでしたが顔合わせできて嬉しかったです。私大学で聴覚障害の授業をしていて、会長にもゲストに来ていただいたこともあるんですけども、手話に対するハードルって学生さんにとって高いのかなというふうに感じる場合があります。手話ができない人は聴覚障がい者と接することができないとか、手話は難しいとか。確かに手話は言語なので簡単に獲得できるということではないと思っていますし、ろう者の人にとっての当たり前のコミュニ

ケーションの手段だということで、これはやっぱりちゃんと考えていかないといけないと思うんですけども。一方で手話だけが聴覚障がい者とのコミュニケーション手段じゃないということも掲示の中には書いてあるんですけど、手話はできないからってコミュニケーションを避けるということがないような形で、ろう者と気軽にコミュニケーション取れるようなそういう社会になってほしいなというふうに思います。イベントは手話に対するハードルを下げるとか、知るきっかけになっていいなと思います。一方でイベントで終わりじゃなくて、もっともっと社会の中に当たり前に手話があるようなことをどうやっていくのかというのがまたこの会議や条例の目的かなというふうに思いました。

議長 お一人お一人の感想を聞かせていただきましてありがとうございました。

■「松阪市手と手でハートをつなぐ手話条例」施行 10 周年記念事業について

事務局 資料をご覧ください。前回の会議でキッチンカーや食べ物の販売についてご提案をいただきました。イベントの趣旨に合わせ、ろう者でキッチンカー営業を行っている方に出店を依頼したいと考えています。またテント出店のエリアも設け、ろう者で雑貨など食べ物以外の販売を行っている方にも出店いただき、気軽にろう者や手話と触れ合える催しができればと考えています。出店場所は駐車場の一角と子ども支援研究センター前のスペースで考えています。また講演について、講師として候補 1 の方へ出演を依頼しているところですが、子どもや手話初心者により手話を身近に感じてもらうため、講演ではなく手話パフォーマンスとトークショーとして来ていただきたいと考えています。そのなかで会長と相談し、新たな出演者として候補 2 の方にも出演をお願いしております。資料裏面をご覧ください。講演ではなく手話パフォーマンスとして来ていただくにあたり、手話パフォーマンスの時間を 1 時間半としたタイムスケジュールに変更したいと考えております。この時間には学生などのパフォーマンスも含んでいます。また参加者の分散を避けるため体験コーナーの時間を手話パフォーマンスと被らないよう 12 時 30 分から 14 時の 1 時間半に変更したいと考えています。

議長 説明聞かせていただいて皆さんからの意見、質問がありましたらお願いします。

委員 ショッピングセンターの場合だと買い物ついでに見ていただくことができるんですが、コミュニティ文化センターの場合はやはりこちらの方から広報しないとなかなか集まっていだけないと思うので、そこらへんは私たちも頑張ら

ないといけないと思いました。

委員 体験コーナーというのは可能かどうか分からないんですけど、例えば午前中とかにやりつつできる方法があればより一層いいのかなと思うんですけど。こちらへんは人員の問題とかあるし、あと映画に集中みたいなね、集客がそっちに行くのかどうかという問題もあるので難しい点ですが。何か方法があるのであれば当然さっき言ったように体験というのが一番印象に残りやすくっていいのかなというのは実際アピタさんでやって一番感じたので。僕自身もろう者と会って、手話というのにふれあうことがあって、やっと勉強したいという気持ちになったんで、体験は多い方がいいのかなと思うんです。

議長 映画に集中していただきたいんですけども、映画と同時進行で何か体験ができるような場所もできるといいなという意見をいただきました。事務局としていかがでしょうか。例えば我々スタッフは映画を見るのではなくて、体験を開催するという方法もできるかと思うんですけども。

事務局 スタッフに関しては映画を見るというわけではなく、他のところにあたることは可能だと思います。ただお客さんが映画に一回入られると終わるまでは出て来ないので、その時間に体験を行うと映画を見ない人に来ていただくという形になると思います。そのあたりのお客さんの分散はなるべくないように、多くの方に集まっていたけりような内容で行いたいなとは思っております。体験自体は先ほど皆さんおっしゃっていただいたように参加者の方からも一番印象に残っている、楽しかったというご意見が多いので、体験の中身は充実させたもので行っていきたいと思っております。

議長 ありがとうございます。キッチンカーなんですが、何時から何時ぐらいまで開催するというか、お願いする予定でしょうか。予定の時間があれば教えてください。

事務局 まだ具体的な時間帯に関しては決まってははいないんですけども、お昼時は開いているような形ではお願いしたいなと思っています。

議長 天候は別に関係なく、雨でも来ていただくという方向でしょうか。

事務局 雨でも来ていただく方向です。キッチンカーだと車内で販売という形になりますし、テント出店のところもテントを張っての販売になりますので、雨でも出

店を依頼する予定です。

議長 教育委員会ですとか、環境の方ですとか、このようなイベントという経験はございますでしょうか。それぞれの課で、例えばイベントにバザーみたいな販売とか、キッチンカーとかそういうことをしてもらう時に大勢のお客さんを集客する方法ですとか。こういったことを注意した方がいい、もっとこういうことをするといいなど何か経験がありましたらアドバイスをお願いしたいと思います。

委員 教育委員会主催であまりキッチンカーであるとか、テントでの物品販売というのはありません。その目的に応じた参加者が来ていただいたり、作品を展示してそれを見に来ていただいたりするものが多いものですから、ちょっとこういった経験はないです。ただテントの方が必要というのであれば、例えば学校から借りてきたり、机、椅子を運び込んだりであるとか。そういうようなところがちょっと心配だなと思います。ただキッチンカーとテントということなので、そんなに数もないのかなと思うんですが、ちょっとそのあたりはどうかなというのがあります。

議長 キッチンカーとテントでの販売ですけども、これを提案した理由なんですけども、一日開催になりますので、映画を見終わってそのまま帰ってしまうということがないように、できればこのイベントに一日参加していただけるようにキッチンカーがあって、ここで食べてもらえたらいいなと思って今回提案をさせていただきます。他の課の方では経験はございませんか。

委員 キッチンカーの経験はないんですけども、飲食を伴ったイベントというのは何度かやらせてもらっています。ただ今回は10周年記念がメインになってきますので、当然ながらこのコミュニティ文化センターの中の事業がメインですよ。そうしますと、先ほど議長がおっしゃられたようにキッチンカーって営業時間が多分大きく左右してくるかと思うんです。アピタで通りがかりでイベントに参加された方が見えるように、キッチンカー目的に中に入って行かかという方、多分見えると思うんです。どうしても食べることで結構皆さん関心が高いので、珍しいもの見たら行かれると思いますし。最近はキッチンカーを出されとるお店自身がインスタとかいろんな形で、このイベントに出ますから来てくださいねってキッチンカーをされる方からも情報発信していただけるかと思っています。それからあと、テントで飲食するとなると臨時で許可とか保健所の関係もありますし、手続き的に事務局がするのかされる方が自分で

るのかこれからのことになるかと思えますけども。特にうちの課ではいつも男女共同参画のフォーラムでわくわくショップという形でいろんな障がいがある方の事業者さんが出店をしている。やっぱりそれを目的で見える方もみえるんで、やはり飲食とか物販販売というのはこのイベントを成功するための一つの議題になると考えています。ですので、それを含めてのイベントの在り方というふうに考えます。あと映画の時間が12時40分までかかりますので、皆さんご飯食べる時間が12時40分から14時までにはありますけども、1時間20分しかありませんのでね。多分食事に集中すると、どれだけのお店が出るかわかりませんが、ちょっとそのあたり少しでもお昼時間というかキッチンカーなり、物販に取っていただく時間があれば、そこでまた啓発のイベントの一つになるのかなと考えております。

議長 許可の手続きとかそういうのは事務局がするのか本人がするのかという問題がありますけど。あと昼休憩をちょっと長くできるかどうかというのも今言っていたいただきましたけども、それについて事務局の方からいかがでしょうか。

事務局 お昼の時間を延ばすとかということは今後検討させていただきます。

議長 テントの販売についての保健所の許可とかというのも事務局にさせていただけるということですか。

事務局 そのあたりは具体的には決まっております。

議長 分かりました。ありがとうございます。何かご意見ございますでしょうか。

委員 私の考えなんですけど、やはり手話が人間の言葉であると感じるには、本人の話を聞くというのがすごく影響が大きいと思うんです。私も授業で必ず当事者の方をお呼びしているんですけど。じっくりろう者と話をするというのがあると、日常生活の中に手話があるんだということが感じられやすいのかなというふうに思いました。イベントでも思うんですけども、割と初心者向けのイベントですよ。手話を知らない人たちが初めて手話を学ぶことなんかを体験コーナーで取り上げていて。それは大事だと思うんですけど、養成講座が終わった人とか少し手話を習っていて、もっともっと手話のことを知りたい、ろう者のことを知りたいという人たちを呼び込むということを考えると、もう少し深い関わりがあるといいのかなと思いました。多分それは手話体験コーナーでは入れ込みにくいと思うんです。映画は映画で上映されてもいいと思うんですけど、

映画は見たことあるという人たち向けに、確かオランダだったと思うんですけど、人間ライブラリみたいなのがやっていて、その人自身が本になっていろんなことを語る。そして参加者と対話するとかそんなこともやっていたので、例えば映画上映の傍ら著名なろう者とかではなくて、松阪市に住んでいる普通の一人の市民としてのろう者の話を聞くようなコーナーがあってもいいのかなと思いました。

議長 映画を見たことがある人に関しては、映画の外では何もやっていなかったらまだなんかなって退屈されてしまうかもしれません。そのあたりまた事務局とも相談させていただきたいと思います。

委員 手話体験コーナーですが、展示とかそういったようなものは朝からしておくと思うんですね。そこにはスタッフの誰かはいた方がいいのかなと思うので、そこに聞こえない人と聞こえる人の両方いてもらって、例えばもう映画見たことあるし、展示とかろう者とも話がしたいなというような人はちょっとお話ししてもらおうとか。さっき他の委員がおっしゃられたように、このイベントは初心者向けのような感じがするので、もうちょっと手話を覚えたい人に対してはどうかというふうなことなんですけど。イベント自体は初心者向けというか、手話を知らない人に、手話を広めて聞こえない人のことも知ってもらうためというふうな目的だと思います。ただそこでもう手話を覚えてもっと深くしゃべりたいなというような人は、例えばお昼のお食事時間に聞こえない人捕まえてしゃべってもらおうとか。そういう自由な会話ができるようなところにもなっていると思うので、そういうところを活用してもらったらいいのかなというような感じはします。それからもう一つ。キッチンカーとか店舗なんですけども、さっき委員がおっしゃられた男女共同参画フォーラムなんかで、松阪からもいろんな障がい者の方たちの施設から出店してもらっているということなんですけど、そういうブースを出してもらったりとか。それから地域で物産を作っていて、有名なお菓子とか食べ物とか出してもらったら。例えばこういうのが事前に分かっていたら、ケーキとかクッキーとかそういう手話を貼りだしておくとかですね。そういうのをきっかけにして、これはこんなふうに手話であるのかと覚えてもらおうと、障がい者の施設の職員さんや障がい者の人たちにも手話を覚えてもらったりとかして、障害を越えた交流なんかでも手話を通してできるのかなというふうな感じはしました。お昼の時間ですけど、午後からの開始を例えば 14 時半ぐらいからにして、終わるのを 16 時ぐらいにしてお昼休憩をもう少しゆったりできるような時間配分で考えてもらった方がいいのかなというふうな気がしました。

委員 すみません。一つ大きなイベントが抜けておりました。みえ松阪マラソンの大会はキッチンカーやテントでの販売もあったかと思うんです。かなり運動公園は風がきついで、テントを張るところも机と椅子が必要だったり、本部用のテントも風で飛ばされないような重し、運動場とかだと杭が打てるんですけど、この場所を考えるとテントの重しが必要とか。張る場所をどこに確保できるとか。もし出店するんであればいろいろ考えなければならぬ部分があるのかなと、ちょっとマラソンの大会を思い起こしてそれを忘れていたなと思ったので、ちょっと意見を追加させていただきます。運営についてはスポーツ課がしているので、またその事情とかも聞かせていただきながらお伝えできればと思います。

議長 ありがとうございます。実は2年前、私マラソンに参加させていただきました。いろんな出店があってすごく楽しかったのを覚えています。でも確かに風が強くて寒かったんですね。買ったらずぐ帰りました。いろんなお店があったなという、それを見るだけでも「これがいいな、あれがいいな」と見るだけでも楽しかったと思います。そのようなことができればいいなと思います。それと、今皆さんからいろんなご意見をいただいて思い出したんですけども、展示についてはゆっくり、自由に見ていただけるといいなと思います。朝から展示をしていただけるんですね。展示だけではなくてデフリンピックについて、もう来年開催で迫ってきています。ただ残念ながらデフリンピックという言葉は認知力がとても低いです。オリンピックやパラリンピックは皆さん90%、80%以上知っているんですけど、デフリンピックというのはまだまだ知られていません。ですから、デフリンピックについても勉強していただきたい。全日本ろうあ連盟の方にも頼めば展示物とかも借りることができますので、そういった展示をしていただく。または手話の絵本というのもあるんです。それを借りて展示をする。お客さんがいらっしゃった時に手話で絵本なんかも表現することができるというのもできたらいいなって今思いつきました。皆さん貴重なご意見いただきました。また事務局の方とも話し合っていきたいなと思います。

3. その他

議長 何かお気付きなことがあればご意見をお願いします。

委員 条例のこととは直接関係ないんですけど、手話奉仕員養成講座のことについてお尋ねしたいと思います。受講してらっしゃる方からお聞きしたんですけど、講座を受講期間中は地域の手話サークルには通わないようにと言われた。講座が終わってから通ってもらったらというふうに言われたと聞いたんです。

けれども、これが事実なのかどうなのかというのを教えていただきたいと思います。もしそういうことで決定していますというのであれば、なぜそのような方法をされているのかという理由についても教えていただきたいと思います。

事務局 手話奉仕員養成講座で地域の手話サークルに通わないでと言われたというようなお話だったんですけども、こちらの方ではそのような言い方はしておりません。他の学習の場と併用、一緒に講座を受けながら他の学習は控えるようにというふうに言わせてもらっております。奉仕員養成講座の受講の間は、ここだけの学習に専念してもらいたいというところなんです。手話奉仕員養成講座につきましては全くの初心者の方が対象の講座ですので、受講生の手話の習得度合をなるべく合わせて進めたいというところがございます。手話サークルにつきましては2年間の講座を修了する時に、サークルの紹介をさせていただいております。修了後は手話サークルへ参加していただくとか、ステップアップの講座とかで手話学習を進めていってほしいということを伝えさせていただいているところがございます。

委員 確認ですけども、この手話奉仕員養成講座を受講中は他の学習会、つまり手話サークルでも手話を学習するので、手話サークルに行って学習するのも控えるようにということですね。終わってからサークルとかは行ってくださいという。

事務局 そうですね。その間は奉仕員養成講座で習っていることに専念してもらって、サークルに行かれている方とレベルが合わない講座が進めにくい。皆が一緒に成長して一定レベルに達するということを目的に進めたいと思っていますので、市が行う事業なので、脱落者がないように成長するような形で進めて行きたいと思っております。そのため強制はしていないけれどもサークル含め他の学習は控えていただくようにという形でございます。

委員 手話奉仕員の養成講座というのは、まだ手話を学習していない、知らない人を対象に0から始めてもらうということが基本になっています。ただ、その学習をしていく時にその講師の手話だけではなくて、やっぱり手話というのはいろろ者にとってもいろいろ違いがあるんだよ。だからいろんな手話があるということも分かってねっていうふうなこととか。それから地域である聞こえない人のイベントとかいろんなところに参加をして交流をしてくださいねっていうことはテキストにも書いてあると思うんですよね。だから学習の程度にばらつきが出てくるというか、元々個人差によって0から出発しても学習していく間にいろんなばらつきが出てくると思うんですけども、講師としか手話で通じな

い。他の聞こえない人と会っても講師から習った手話が通じないって思ってしまふのはすごく残念だと思うので。地域でも手話サークルがあるし、いろんなイベントなんかもあります。そこで聞こえない人とも会ってくださいねっていうようなお知らせは是非してほしいなというふうに思うし、そういったことが手話奉仕員養成の目的の一つじゃないのかなっていうふうに思うんですけども。松阪市は講座が終わるまでは他の学習は控えてくださいという考え方ということですかね。ちょっとそれは確認してもらったほうがいいかな。

議長 奉仕員養成講座に集中したいというか、専念したいからサークルは遠慮してくださいっていうことですよね。サークルは勉強目的じゃないです。交流の場です。学習の場ではありません。コミュニケーションの場であり、聞こえない人たちとお話をしたい、おしゃべりをしたいとか。勉強が目的ではないです。だからサークルに来てもいいんじゃないかなと。それがだめということが私としても疑問に思います。

事務局 初心者の方に基礎から学んでいただくというような形で、2年間そういう制度の元で20人募集をさせていただいて、20の方が2年間同じような形で学んでいただいている。2年間については、講師の先生の方で同じような形で学んでいただきたいというような方向性で進めているのが現状でございます。ただ必ず行ってもらったらだめというのではなくて、あくまでお願いでございます。サークルを主体されている方とかろう者の方からもいろんな意見があろうと推察いたしていますが、今の形で進めさせていただきたいというふうに考えています。

議長 意味がちょっと分からない。奉仕員養成講座の目的というのは松阪市のろう者と日常会話を身に付けるということですので、松阪にはいろんな人がいます。サークルはいろんなろう者の方がくるんですね。いろんな手話を見るということは大切だというふうに思いますので、講師の手話だけではちょっと。そういうやり方というのは疑問に思います。奉仕員はままごとじゃなくて、サークルでいろんな方々と交流して、そこで奉仕員で身に付けたことを結び付けていく。それがないと伸びないのではないかなと思います。こういう手話があった場合に講師に教わったことかなというふうにそういうことを結び付けながら伸びていくと思いますので、なかなか奉仕員養成講座に集中するということだけでは伸びないのではないかなと思います。このあたり検討していただきたいと思いますが、けれども。

事務局 現状、今までこういう形でやってまいりました。2年間と限られた時間でございます。長いことだめっていうのではなくて、本当にベーシックな部分を取得いただく短い期間でございますので、今までこういうふうに進めてまいりました。2年修了後にはですね、本当に皆さんのお世話になりたいと思いますので、修了した人を受け入れていただいて、様々な手話に触れていただきながら奉仕員養成講座の卒業生の方がより広い世界にいていただければなと思いますので、ご理解のほどいただきたいと思います。現状としてはそういった形で進めているのが現状でございます。

委員 松阪市の手話奉仕員の養成講座がもう10年になるのに、この奉仕員養成講座を修了した人が県の行っている手話通訳者養成講座につながっていかない。従って手話奉仕員養成講座で受講して修了した人の中から、手話通訳者として研修センターがやっている手話通訳者の統一試験にも挑戦する人が松阪市からは現れてこない。これは大きな問題であると思います。ちょっとどのへんに問題があるのか、原因はいろいろあるかも分かりませんが、講師の問題も一つあるのではないかと思うので検証していただきたいというふうに以前申し上げたかと思うんですけども。今の話を聞いて、そこも原因の一つかなと思いました。というのが、手話奉仕員講座を2年間受けてなんとかその講師の手話は分かるようになってきて、講師とは通じるようになってきた。地域の手話サークルに行ってみたら地域のろう者の手話が分からない。通じない。自分の2年間はなんだったんだろうかって思う人もひょっとしたらいるのかなっていうような気がしました。それは確かめてないのでどうか分からないですけども。やっぱりある程度奉仕員養成講座で手話を身に付けてきたらろう者とも会って、交流をしてもっともっといろんな人たちの手話があるんだなということが分かって、奉仕員養成講座を修了しても自力で頑張っていけるような。そういう土台になってもらったらいいなというふうに思ったんですけども。ずっとそういうような方針でやってこられたということが今やっと分かりました。その良し悪しについてもぜひ検証していただきたい。この10年間の中で修了した人たちがどれだけ手話を続けてらっしゃるのか、どう考えてらっしゃるのかもちょっとアンケートとかそういうことをしながら検証していただいて、今後の条例ができた11年目に向けてちょっと方向性を見直していただけたらありがたいなというふうに思います。お願いします。

事務局 貴重なご意見ありがとうございます。奉仕員を育てるという意味で行っていますので、なかなか通訳者までは突っ込んで言わせていただくというのは現状してないです。今後の課題でもあるし、貴重なご意見いただいたということでよ

ろしくお願いします。

委員 奉仕員養成講座受けたことないんですけども、確か厚生労働省のテキストに沿ってやっているんですね。

事務局 そうです。厚生労働省のカリキュラムに従ってやっています。

委員 そういうことだと難しいかもしれないんですけども、確かにろうの方いろんな方いらっしゃるって、それぞれの家庭の手話の環境とかによって様々だと思うんです。私も手話サークル通っていて講師の手話に慣れてきて、同じ表現をしているのに違う方がされると分からないという経験もしたことがあります。いろんな方がいるというのを知るのは大事なことだと思うんです。今日の報告のあったまちかどミニお手話べり会にも手話奉仕員養成講座の方が来てくださっているんですけど、やっぱりこのイベントは初心者向けということで、そういう方たちのろう者との出会いの場にはなかなかきれてない部分があるんじゃないかなとは思いました。イベントのやり方をもう少し工夫してみるというのもあると思いますし、さっきお聞きしたように奉仕員養成講座の中でイベントとか、課外活動的な位置づけでいろんなろうの方と交流してみようみたいな単発なイベントを開催されるというのも、皆さん足並みをそろえるのが大事だとおっしゃるのであればそういうことも一つ案としてありうるのかなと思いました。ちょっと出過ぎた意見かもしれませんが。

議長 ありがとうございます。今課題というのがありましたけども事務局だけではなかなか難しいと思いますので、我々ろうあ協会と共に話合っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。委員の皆さん意見ございませんか。では意見ないようですので、これで本日の会議は終了したいと思います。

事務局 次回の会議については、4月頃に開催したいと考えております。日程が決まり次第開催通知をお送りしますので、よろしくお願いいたします。それではこれをもちまして、第44回 松阪市手話施策推進会議を終了いたします。お疲れ様でした。